

## 第73期 事業報告書

当年度の事業概要を次の通り報告いたします。

(2023年6月1日より2024年5月31日まで)

### 1. 自然科学関連知識の普及及び啓蒙

- 「自然科学書協会講演会」並びに「サイエンスカフェ」の開催はオンラインリモート形式での開催を検討したが、実施には至らなかった。

### 2. 自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及

- 文字・活字文化推進機構等の活動に協調し、日本書籍出版協会をはじめとする出版界各団体が主催する諸事業に協力した。
- 「自然科学書フェア 2024」を開催した。
  - ・期日：2024年5月14日（火）～7月31日（水）
  - ・会場：ジュンク堂書店 藤沢店
  - ・テーマ：「未来への架け橋 知識の泉自然科学書フェア」
  - ・参加社数：47社（前回51社）
  - ・出品：1,126点 2,405冊（前年1,187点 2,396冊）
- 海外のブックフェアは諸条件が合わず出展は見送った。

### 3. 著作権の普及と啓発

- 著作権の保護並びに著作物の適正利用を推進する活動を行った。
  - ・図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）の構成団体の一員として委員会に参加し、その運営に協力した。
  - ・授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）の運営やその構成団体である出版教育著作権協議会の運営に参加した。
- その他、著作権に関連した活動を行った。
  - ・出版者著作権管理機構（JCOPY）の構成団体の一員として運営に協力した。

### 4. 自然科学の振興に功績のあった者及び自然科学書出版に特に貢献をした者の顕彰

- 文部科学大臣表彰科学技術賞の推薦団体として会員社に対して当該表彰候補を募集したが、期日までに応募はなかった。

### 5. 出版文化向上のための研究会・講演会等の開催及び関連団体との交流

- 2023年11月21日（火）、出版クラブホール・会議室において、第23回「出版・印刷人の集い」が東京都印刷工業組合出版メディア協議会の主催、自然科学書協会と出版梓会の協賛で、約100名の参加を得て開催された。

講師：群馬大学情報学部教授の柴田博仁氏

演題：「読み書きを捉えなおす～紙とデジタルの使い分け・これからの読書」

- 当協会主催(或いは共催)による研修会2件を企画。文化産業信用組合による「＜最新＞出版社のための補助金・助成金解説& 顧客支援課のサービスと事例」は当協会主催、株式会社青山財産ネットワークスによる「出版社経営者必見——失敗から学ぶ円滑な事業継承」は出版梓会との合同開催。それぞれの開催は、次年度(6月・7月)となった。

## 6. 広報誌等の編集発行及びホームページの管理運営

- 電子版会報を年4回(今年度は8・11・1・4月)発行した。また、ホームページでも公開した。

主な記事は

- ① 理事会の動向や決定の周知
- ② 各委員会活動の報告
- ③ 自然科学書フェアの告知並びに報告

- ホームページを常に最新の状態にして、外部への情報発信を行った。
  - ・協会の概要を掲載し、常に更新した。

## 7. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- 日本書籍出版協会と連携し、出版物に対する軽減税率適用に向けて働きかけを継続していく。
- 出版界で行う諸事業(全出版人大会の開催、出版平和堂の活動など)に協力した。
  - ・2024年5月7日(火)に、第63回全出版人大会が、ホテルニューオータニで懇親会も含めて開催され、協賛団体としてこれに協力した。
  - ・2023年10月25日(水)に、出版平和堂第55回出版功労者顕彰会が執り行われ出版平和堂維持団体として運営に協力した。
- 今期の活動状況を業界紙等に報道依頼し、活動並びに存在意義を広く告知した。
- 和文名簿を当会ホームページで公開し、協会活動と出版活動の周知を図った。
- 事務局職員の退職に伴い新任担当者への業務引き継ぎを進めた。また併せて就業規則・賃金規程を整備し、社会保険・雇用保険の加入を行った。

以 上

## 事業報告附属明細書

該当なし